

# TEIKYO SPIRITS

帝京大学医学部附属病院 同窓生医療連携だより

2022 / WINTER

[帝京スピリッツ] 創刊号

Vol. 01

現場の同窓生による対談が実現

私たちの未来の医療連携について



🔪 創刊号特別対談 — 世代を越えて本音で語ります —

- ・ 三澤先生が“帝京愛”について語りつくす!
- ・ 笹森先生の考える次世代教育のビジョンとは?
- ・ 歴史をしのぐ未来へ、さらなる50年に向けて佐川先生の目指すこと
- ・ 田代先生の心の支えになっている思い出の品が登場

帝京大学医学部同窓生に向けてお届けする同窓生医療連携だより

創刊号では、帝京大学医学部附属病院で活躍する同窓の4名の先生方に、「帝京大学のいま、そしてこれからの未来」についてお話しいただきました。



Profile — 出演者紹介 —



帝京大学医学部附属病院 肝胆膵外科 教授  
**三澤 健之** みさわ たけゆき

入学年(何期) 10期  
出身地・出身高校 東京都・桐朋高校  
在学中のニックネーム みさわちゃん  
部活 サッカー部  
座右の銘 どんなに努力しても  
出来ないことはある  
仲の良い同期 大勢います!



略歴はこちらから

帝京大学医学部附属病院 産婦人科 病院教授  
総合周産期母子医療センター長

**笹森 幸文** ささもり ゆきふみ

入学年(何期) 11期  
出身地・出身高校 北海道・函館中部高校  
在学中のニックネーム さっさ  
部活 バスケットボール部  
座右の銘 和をもって尊しとなす  
仲の良い同期 はぎわら内科クリニック  
萩原 徹先生



略歴はこちらから



帝京大学医学部附属病院 救急科 病院教授  
総合診療ERセンター長

**佐川 俊世** さがわ としお

入学年(何期) 12期  
出身地・出身高校 東京都・城北高校  
在学中のニックネーム としくん  
部活 スキー部  
座右の銘 思いやりをもっていますか?  
仲の良い同期 東川口病院  
田辺知宏先生



略歴はこちらから

帝京大学医学部附属病院 血液内科 准教授

**田代 晴子** たしろ はるこ

入学年(何期) 24期  
出身地・出身高校 埼玉県・浦和第一女子高校  
在学中のニックネーム はるちゃん  
部活 バスケットボール部  
座右の銘 Hope for the best and  
prepare for the worst  
仲の良い同期 新宿ライフクリニック  
須田隆興先生



略歴はこちらから







## 4人それぞれのプロローグ

現場の同窓生による対談がついにスタート、なぜ帝京に決めたのか

——今日は帝京大学医学部の卒業生であり、現在院内で活躍されている4名の先生方をお招きし、忌憚なく帝京の現状やこれからについてお話しいただきました。くお集まりいただきました。

三澤「肝胆臓外科、教授の三澤です。私は、元々の帝京病院で働いていましたが、一昨年に帝京に戻ってきました。私が帝京大学に戻ってきた理由は、帝京をもっと盛り上げて、帝京ブランドを確立したい、最後の5年は母校の後輩たちと一緒に働いてみたいと思ったからです。実際に戻ってきて、校舎も病院もスタッフも全て素晴らしく感じました。帝京大学はこれからもどんどん伸びていくだろうなと実感しているところです」

三澤「続いて佐川先生。佐川先生はもうミスター帝京ですよ」

佐川「総合診療ERセンター長、病院教授の佐川です。外に出たのは35歳の頃、世界レベルの医療や治療についてリサーチするために1997年からシ



カゴのノースウェスタン大学に留学に行った2年だけですからね。あとは帝京一筋です」

三澤「笹森先生はミスター教育と言ってもいいんじゃないですか？学生から講義がわかりやすいと『神』と呼ばれていますよね」

笹森「いえいえ、そんなことは（笑）ありがとうございます。総合周産期母子医療センター長、病院教授の笹森です。」

最初は帝京以外の病院に勤めるつもりでした。当時色々な大学を受けていて内定もいただいていた。でも最終的に帝京に残りましたね」

三澤「なんで帝京に残ろうと思ったのですか？」

笹森「直感的に思ったんです（笑）。当時はとにかく臨床を学びたいという気持ちが高く、医局長や教授にお願いし、3年目以降はいくつかの関連病院へ出向させていただきました。市中病院で様々な経験を積むうちに、徐々にやはり大学に戻りたいという気持ちが強くなってきて9年目で帝京に戻りました。

他の病院をいろいろ知ることによって初めて帝京の良さが分かったのだ。

私は学生時代やる気のない学生だったのですが、3年生から帝京大学病院の救急外来の事務当直バイトを始め、月に7〜8回、現場に入って仕事をしている

## さまざまな経験を経て、最終的に帝京で働くことを決めた理由。



うちに意識が変わってきたんです。今という早期臨床体験（アーリーエクスポージャー）になっていったんですね、自然と。その時の雰囲気がとても良くて！徐々にやる気が出てきて、真面目に勉強もするようになり、高学年ではクラス委員や国試対策委員などもやらせていただきました。そこからは凄く楽しかったですね。なんと言っても1つ上の先輩に帝京の神と言っても過言ではない三澤先生がいたので（笑）」

全員談笑

三澤「ありがとうございます（笑）」

笹森「そんな学生時代の思い出が、脳裏に焼き付いていたことも、帝京に戻ろうと思った要因の一つですかね」

田代「血液内科准教授、血液内科病棟医長の田代です。」

私は2000年卒業なのですが、その年は例年内科に15人ほど配属されるのに対して、8人程度しかいません

した。ですので、とても忙しく当直も多かったです。私も最初は外の病院に出ることも考えましたが、私たちの時代くらいから帝京に残る人も増えてきたように思います。

外の病院もいくつかみたりしましたが、慕っている先輩もたくさんいるし、建物も知っているし、スタートを切るには帝京がいいと思いい、残ることにしました。内科に入局して、2年間の研修を経て、血液内科の大学院に行き、その後助手になったので、留学へも行きました」

三澤「人数も少ないし、優秀な先生から濃密な指導を受けられたからラッキーだったんじゃないですか？」

田代「ラッキーといえばラッキーだし、苦しかったといえれば苦しかったです(笑)でもその大変だった頃があつて今があるので、経験できてよかったなと思っっていますね。あとは、2012年から4年間ヒューストンのベイラー医科大学に研究留学していました。この経験もとても貴重な経験で、今に活かしていると思います」

帝京が誇れるところを  
教えてください

三澤「帝京のいいところはいくつもありませんが、一番は同級生に温かい人が多いことです。どの学年の先生に聞いても『帝京の先生は人柄がいい』と言います。現在も帝京の中はもちろん、外の病院でもすごく頑張っている先生が多いですよ。医師会のトップになっていたり、

クリニックで大成功されていたり」  
笹森「むしろ外で活躍している人がすごく多いですよ」

三澤「人間性に優れているから信頼されているのでしょうか」

技術もそうですが人柄って何より大事だし、患者さんの立場に立っても温かい先生がいいですよ。

『人柄の良さ』これが帝京のいいところだと思います」

現在チャレンジしていること、  
仕事の流儀は？

佐川「先輩の育成です。その一言に尽きます。60歳になってこんなに長い時間働いているのは、生半可な気持ちではできませんよ(笑) 先輩の育成のためだからできるんです。

今は形だけの臨床実習が多いのですが、シミュレーションはあくまでシミュレーションであって、生身の人間を診る



自分が医者になることを学生に自覚してもらおう。そのためのスイッチを押してあげたい。

ことでいろんな考えが出てくるし、そこで学べることが多い。それを体験するにはERはもってこいです。先輩にたくさん経験をさせると、目が変わってくるんですよ。医者になるってこういうことなんだな」というのが生身の人間を診てわかってくる。スイッチが入るんです。座学だけではわからないですね。かつての自分がそうでした。BSTで白衣を着て、患者さんを受け持つ、そこで一気にスイッチが切り替わったんですよ。やっぱり自分は医者になるんだって。その気持ちを少しでも先輩に知ってもらいたい。

私が入局した時代(第一内科の循環器)はカテーテルもできる、ペースメーカーも入れることができる、そのように全体を診るということが大事だと考えていました。

そのようなスタンスでやっていたので、自然と当時の上司からCCUから一般病棟まですべての循環器疾患の患者さんを診なさいと様々な病状の患者さんを任せてもらうことになりました。一言で言うと全ての疾患を診ていましたね。

帝京にはやる気があればチャレンジさせてくれる土壌があることも知ってほしい」

次世代育成のビジョンについて

笹森「私も基本的に後輩の育成を考えています。私の場合は、講義を通して学生に教えることです。

どの大学も同じだと思いますが、や

る気のない学生もいますよね。医学部にいてもこの子は本当に医者になる気があるのかな?と思うような学生もいます。そういう学生に、自分は医者になるんだってことを気付かせたい。

将来ひとりでも多くの患者さんを助けられるようになる為に、いま勉強しなきゃいけないと思うような、そういうきっかけを作りたいですね」

三澤「笹森先生は非常に教育熱心だし、教育のために時間もかけていますよね。そのモチベーションは何でしょう?」

笹森「やはり自分が教えることで学生がやる気になってくれることが嬉しいからですかね。帝京にとってもそれがプラスになりますよ」

学生自身が『いま、やらないうけない』と気づいて、ぐっと成績が伸びる時があります。そのタイミングは、もしかしら研修医になってからかもしれないし、その先かもしれない。でもその根底には学生の時に学んだことがあると







思います。私も、学生の時に事務当直をやったことで気付かされました。講義で気づかせるのは難しいことかもしれないけれど、できるだけ医療の面白さを伝えられるように工夫しています。

帝京大学は、キャンパスも設備も素晴らしい。附属病院と大学がこんなに近くにあるところは実は少なく、学生のやる気スイッチが入ればこんなに働きやすい病院ってないと思うんです。私としてはそのスイッチを入れてあげられるように、後輩の教育に力を入れていきたいと思っています」

三澤「教育は本当に大切ですからね。先生のような人がいると学生たちも頼もしいと思います」

【チームのために何ができるか】

田代「私が現在挑戦していることは、いかにこの血液内科を組織力のあるチームにしていけるかということを考えています。」

組織として少しずつでも成長している集団でありたいですね。1年ごとにちよつとずつでも目にみえる成長をし

母校で後輩の育成がしたい。新たな挑戦とは。

ていきたいと思っています。

三澤「私は田代先生が帝京のアイコンになっていくと思ってるんですよ」

田代「そんなことはないと思いますが(照)そう言っていただけで嬉しいです。ありがとうございます」

三澤「私は母校で後輩の育成をしたいと思ひ、一昨年の4月に帝京に戻ってきました。チャレンジしていることは低侵襲手術です。腹腔鏡手術やロボット手術など、患者さんの体に優しい手術ですね。帝京に戻って来るときに病院から3つのことをお願いされました。

- ・腹腔鏡手術をたくさんやってほしい
- ・手術支援ロボット・ヴィンチを使って肝胆膵の手術をやってほしい
- ・後輩の指導をしてほしい

この3つです。

おかげさまで腹腔鏡手術は肝臓、膵臓、胆嚢にも導入できました。ダ・ヴィンチの膵臓手術も始めました。また、ダ・ヴィンチのヘルニア手術に関してはこれから日本で開始される二つの多施設共同研究で研究責任者をやっています。これからも積極的に新しいことにチャレンジしていきたいですし、時代をリードしなければいけないと常に思っています。やはりこれだけの設備がある病院なので、

トップを走っていかないといけない。自分が引っ張っていく気持ちでやっていきたいと思っています。在校生・卒業生みんな

の力で帝京をよくしていきたいと思っています」

【これからの帝京、私たちの未来の医療連携について】

佐川「卒業生がしっかりと誇れる大学、残りたい大学を目指していきたい。そのために、先ほど皆さんがそれぞれお話ししてくれた思いを、しっかりと未来につなげていければいいと思います。

やっぱり帝京っていいな、やっぱり帝京に残ろう、学生からそう思ってもらえるように頑張りたいです。

その場だけの医療連携はどこでもできると思いますが、『持続する医療連携』は難しい課題です。その中で何が一番大事かというところ、シンプルに、

『帝京には良い先生がいて、きちんと診てくれる』

と思ってもらえることです。それって結局原点に帰ることだと思っんですよね。ダ・ヴィンチなどの最先端の医療ももちろん大事ですが、その患者さんと向き合い診てくれる医者を育てることが大事なのかなと」

三澤「本当そうですね。近道はないですね」

佐川「その通り、近道はないです。病院なのだから、患者さんを治すことが原点

「卒業生が誇れる大学」と「持続する医療連携」を目指して。



で、それをしっかりとやっていけば結果はついてくると思っています」

笹森「昭和、平成前半の帝京は医療連携があまりできていなかったように思います。患者さんを受け入れ、治療終了とともに地域の先生方との関係が終わってしまい、顔の見える連携ができていなかったと思います。当時から一生涯命やっていたはずですが、それが外に伝わらず、切れ目のない医療体制づくりまでできていなかったと思います。ただ医療連携室が主体となり、「帝京大学医療連携セミナー」を開催するようになってからは地域の先生方の顔と声がかかるようになり、紹介率も格段に上がっています。とてもいいきっかけになりましたね。

『同窓生医療連携懇話会』という、帝京の同窓生が集まる会もあります。私も世話人のひとりですが、この会は、同窓会とは一味違い紹介・逆紹介などを通じて、お互いに助け合おう、という主旨のもと開催している会です。研修医時代にも仲の良かった卒業生が私に会いに来てくれてとても嬉しかったということ



がありました。

また、今帝京で講師をしている先生がいるのですが、その先生とは「同窓生医療連携懇話会」で久々に再会して連絡を取るようになり、私が帝京に戻って来てほしいとお願いをして本当に戻ってきてくれることになりました。この会がなかったら実現しなかった話ですから、そう考えるととても有意義な会だと思います」

田代「これからの帝京という面では『帝京といえばこういうことをやっている病院』とわかるような形で、臨床・研究ともに、発信力を上げていきたいですね。私も血液内科として、『こういうことをやっている』と目に見えるようにしていきたいと思っています。自分や自分の周り、後輩のブラッシュアップをしていくことで、将来の血液内科医を増やしていきたいです。

医療連携については、紹介していただいた患者さんの治療をして終わるのではなく、その後のフォローも大切にしていきたいです。「帝京大学医療連携セミナー」では近隣の先生ともコミュニケーションが取れるので、そういう意味でもこのような会はとても大事だと思います」

三澤「現在の帝京の医療連携は素晴らしいですね。」

医療連携室のみなさん、いつもありがとうございます。」

私は帝京愛がとても強いので、これから帝京にはもっともって発展していったほしい。そのためにはできることからみんなやっていくことが帝京の母校愛や、プライドに繋がると思っています。私たちは良い診療と研究を、今もこれからも続けていく。その背中を見せられれば、後輩もみんな優秀な人ばかりだから、そこから何かを得て悟ってくれるんじゃないかと思うようになりました。昔はもっと気合いを入れて自分から教えようと思っていました。今は自分がやるべきことをきちんとやること、教育の一番の近道なんじゃないかなと思っています」

将来、医学部を目指す若者たちへ  
先生方からメッセージ

笹森「帝京のキャンパスは本当に誇りで、こんなに充実しているところは他にありません。私は他の大学をいろいろと見に行く機会がありますが、その度に改めて帝京は本当にいいと思っています。教員はみんな教育熱心で、本当に誇れるメンバーが揃っています。ぜひ一度帝京を見に来てほしいですね」

田代「医療という仕事は楽しい。これを伝えたいです。」

もちろん大変なことも多いですが、そ

医療という仕事は楽しい。ぜひ一度帝京大学へ。



の分業しいこともたくさんあるので、ぜひチャレンジしてみてください。

帝京は学習する環境としては校舎も綺麗だし、設備もしっかりしていて、私たちの時代からすると本当に良くなっています。

医学部に興味のある方はぜひ一度帝京に来てみてください」

佐川「帝京は総合大学なので、医学に限らず、コロナ禍で先が見えない時代だからこそ、来て！見て！！ほしいです。いい人たちが揃っていて開かれた大学なので、気になるところがあればなんでも聞いてみてください。きっと何かプラスになることが1つはあると思います。それを将来について考えるきっかけにしたいです」

三澤「スタッフのチームワークや、他科のドクターとの連携がよく、とても仕事しやすい環境です。そして、総合大学ならではの楽しみ方もあります。みんなが駅伝やラグビーなどのスポーツを応援したり、いろいろな楽しみ方ができるス

ケールの大きい大学です。温かな雰囲気の中で学ぶことができるので、ぜひ帝京ファミリーになってください」

——本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

世代も診療科も立場も違う先生方ですが、各々が、未来の帝京のためにできること、に情熱を燃やし、帝京愛と医師としての信念・使命感を持ち日々の診療に邁進されていることが伝わる座談会でした。これからも、医療連携室は先生方に寄り添い、地域との架け橋となり「地域で支える医療」発展のため全力でサポートしていきます。



▶撮影にご協力いただいた「帝京大学入試センター」(板橋キャンパス内)  
本学の入試や進路相談会などを行っています。



# 2022年 診療科別同窓生 在籍リスト (帝京大学医学部附属病院)

※講師以上の医師を掲載しています

## 内科

血液内科	准教授	田代 晴子
	講師	白崎 良輔
腎臓内科	医局長 講師	田村 好古
消化器内科	病院准教授	相磯 光彦
	講師	阿部 浩一郎
リウマチ・膠原病内科		
	病院准教授	菊地 弘敏

## 循環器内科

講師	紺野 久美子
講師	渡 雄至

## 脳神経内科

講師	北國 圭一
----	-------

## 外科

肝胆膵外科	教授	三澤 健之
下部消化管外科	病院准教授	野澤 慶次郎
	講師	端山 軍

## 救急科

総合診療ERセンター長	
病院教授	佐川 俊世

## 産婦人科

総合周産期母子医療センター長	
病院教授	笹森 幸文
講師	紀平 力
医局長 講師	一瀬 隆行

## 小児科

講師	萩原 教文
----	-------

## メンタルヘルス科

病院准教授	赤羽 晃寿
講師	渡邊 由香子

## 眼科

医療技術学部教授	林 孝雄
医療技術学部准教授	金子 博行

## 整形外科

病院准教授	松田 健太
講師	山本 巖
教育学部准教授	時崎 暢

## 皮膚科

講師	石川 武子
講師	田中 隆光

## 麻酔科

病院准教授	原島 敏也
病院准教授	柿沼 玲史

## 形成外科

講師	山岡 尚世
----	-------

## 保険指導部

部長	吉原 久直
----	-------

2022年2月1日現在 敬称略 順不同

## 帝京思い出アイテム紹介

先生方に思い出アイテムを持ってきていただきました。  
当時の思い出と共に語っていただきます。



2000年の研修医1年目に同期と一緒に撮った写真です。先日、准教授になったお祝いに、同期がメッセージを入れてプレゼントしてくれました。大変な時期でしたけど、いいこともたくさんあったので、写真を見て懐かしんでいます。

## 准教授昇格祝いのメッセージ

このポケベルは辛かった日々を思い出す品ですね。当時はとても忙しく、当直中に一瞬眠れた時など、夢でポケベルが鳴っているのか現実で鳴っているのか分からなくなるような忙しさでしたね。今、大変なことがあっても、このポケベルをみてその頃と比べたらまだまだ大丈夫だと思って頑張れます。



現在はモバイルフォンとなった  
当時のポケベル



田代先生

辛くとも、充実した日々



病棟医長だった頃にオペ室で  
撮影した写真



笹森先生

帝京卒初の病棟医長に

オペが終わって患者さんが帰った後の写真です。1999年で、10年目くらいですね。当時の教授から、病棟医長をやらないかと言われたのですが、最初はまだまだ実力的にもできないと感じていました。当時の病棟医長はほとんどが他大出身者ばかりでしたし、でも当時の教授の森先生が、『これからは絶対に帝京出身者がやらないといけない』と言ってくれて、やらせていただくことにしました。森先生は東大出身の先生ですが、それでも強い言葉を掛けてくださり、とても嬉しかったのを覚えています。おそらく私が帝京出身で初の病棟医長だったと思います。とても光栄に思います。この写真はその当時の写真なので、思い出深いです。



三澤先生

「帝京スピリッツ」を胸に



必勝帽（手術帽）

緊迫感が続く外科チームでは、難しい手術が多い中この帽子を被りチームの団結と集中力を高めています。『THE TEIKYO SPIRIT』でチーム一丸となり頑張っています。デザインは様々なデザインをみて自身がデザインしたもので手術帽にも『THE TEIKYO SPIRIT』を刻みました。

サッカー部時代のユニフォーム  
と記念Tシャツ

私はサッカー部だったので、当時のユニフォームを持つてきました。当時は関東医歯薬獣リーグが5部まであったのですが、ずっと5部でした。

ただ、卒業してから私がOB会長をやらせていただくことになり、それをきっかけにサッカー部を強くしたいと思ったのです。外科の佐野先生にサッカー部の顧問になってもらい、2人で選手たちを叱咤激励して勇気づけました。そうしたら、当時関東医歯薬獣リーグ6部だったのが約10年で2部になり、そしてなんと一昨年、1部との入れ替え戦で慶應大学医学部に勝ち、1部が上がったんです。

頑張れば何でもできる、ということを感じましたし、その時にいただいた記念Tシャツに書かれている『帝京スピリッツ』、これをキーワードに病院でも後輩を指導しています。